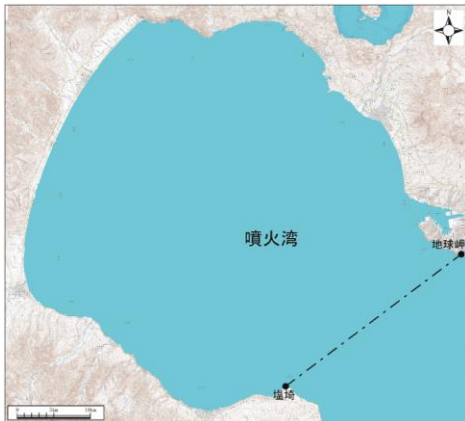


ジオパークとは「地球と生命とのつながりを楽しく学べる地域」のこと。
洞爺湖有珠山ジオパークは洞爺湖や有珠山を中心に「変動する大地との共生」を学べる地域です。



地球岬と塩崎を結ぶ線の内側が「噴火湾」(環境省HPより転載)



有珠山山頂から見える噴火湾(右)と伊達市の街並み。

伊達市、豊浦町、洞爺湖町は、噴火湾に接しています。普段、海を目にする方も多いのではないのでしょうか。一番身近な海であるこの噴火湾は、実は多くの特徴がある不思議な海でもあります。そのいくつかをご紹介します。

①「噴火湾」でも、「噴火でできた海」ではない!

「噴火湾」という名前がついているので、大昔の火山の火口だったのでは?と思う方もいるかもしれません。

しかし、もしも噴火でできたとなると、周りに火山灰などの噴出物が大量に積もるはずですが、今のところ、このような噴出物は見つかっていないので、噴火湾は噴火でできた海ではない、と考えられています。

噴火湾の名前の由来は、1796年に日本近海に探検にやってきたイギリス人、ウィリアム・ブロートン船長が、湾から「3つもの火山が見える」この海を「Volcano Bay 噴火湾」と名付けたことによります。

② 季節で海水が入れ替わる!?

春、北海道の北から流れてくる冷たい水(親潮水)が、日高沿岸を通過して噴火湾に入ります。秋冬になると、今度は南から流れてくる温かい水(津軽暖流水)が、津軽海峡を通過して入ってきます。

このように、冷たい水と温かい水が季節で入れ替わり、さらに湾の中で混ざり合うという場所は、世界的にも珍しいと言われています。

③ 川からの雪解け水で、オリジナルブレンド海水に!

雪解けの季節になると、長流川・遊楽部川・貫気別川・長万部川などの川から、通常期の約3倍の水が海に流れ込みます。山や森、農地を流れてくるこの雪解け水には、たくさんの栄養が含まれていて、湾内で海水と混じり合い、噴火湾オリジナルブレンドの海水を作ります。その結果、海の中で植物プランクトンが増え、魚やホタテを育てます。陸と海は、川という水の流れて結びついているといえます。

噴火湾沿岸には、海の恵みに支えられた人々の暮らしがわかる、縄文遺跡や史跡がたくさんあります。ぜひ訪れてみてください。

